

## 富山県経済・文化長期ビジョン懇話会 委員意見

## 【特別委員 意見】

## &lt;田中耕一 特別委員&gt;

## ○目指すべき将来像

- ・日本には独自の文化と経済・科学技術があり、それを今後も育む素地がある。
- ・その中でも富山ならではの風土や環境、欠点と思われる事さえも活かしてきた先人からの知恵や努力がある。
- ・国が目指す日本全体の将来像は参考程度にして、富山として目指す将来像は、それら特長を活かすことを中心に考えた方がよい。

## ○論点（検討テーマ）

- ・例えば、少子高齢化を“乗り越える”のような、どちらかといえば「後ろ向き」の発想よりも、世界に先んじて課題を”解決”してきた、これからも”解決”していくことが期待されている先進国：日本、その中の富山県として何ができるか。
- ・富山県の隠れた強みは何か。当たり前や弱みと思われるものの中に、本当は強みになれる点はないか
- ・文化と経済、さらには科学・技術が一体となり、総合力、融合して力を発揮できる方法は何か

## &lt;中西進 特別委員&gt;

## ○目指すべき将来像

愛郷心を持ち、世界規模のスケールを持った人材が活躍する富山県

- ・文化の根幹は教育にある。
- ・新しい日本を創っていくためには、真の地方分権が大事。全世界を視野に入れた教育により、新しい地方の創生が始まる。
- ・教育によって作り上げられたモラルこそが世界の平和を可能にする。

## ○論点（検討テーマ）

## ①人材の育成

- ・郷土に根差した初等教育から高等教育まで一貫した教育。
- ・広徳館学校（仮称）の創設。目標は広域地域学。日本全体を視野に入れて創設するには、新しい精神を実現する学校法人を立ち上げる必要がある。資金は国資金、県資金、民間資金で営まれる学校法人が考えられないか。富山には馬場ハルさんの例がある。
- ・初等から高等教育までの一貫教育のメリットは、能力に応じた教育ができること。一貫教育に加えて海外学習を義務付ける。

- ・精神が重要。今の学校は学力と言いすぎ、賢い人を作ることに力を入れている。国民は全体が賢くなくてもいい。賢さが2割、豊かさが8割の教育をすればよい。

## ②伝統工芸の振興

- ・伝統工芸に力を入れることは、郷土愛につながる。
- ・職人の持っている技の美しさ、尊さを拒否してはいけない。

## ③人材がどのように富山県に帰ってくるか

- ・巨大都市の大学を出ても県に帰ってきて貢献する人は少ない。
- ・心豊かで愛郷心のある人の受け皿を作らなければいけない。
- ・「藩学」を引きつぐ「県学」を創始する。

## <西村幸夫 特別委員>

### ○目指すべき将来像

- ・自然が豊かで風景が美しい生活の場と先端産業の融合したライフスタイル+奥深い文化が幾重にも重なるそれぞれのまちがあるという地域像+人にも産業にも選ばれ続ける魅力ある地域。
- ・これらを統合した「生活王国」を目指す。

### ○論点（検討テーマ）

- ・「生活王国」とは生活、文化、産業が地域を豊かにすることに貢献している状態をいい、単に産物や商品、デザインだけでなく、それが生活に根付いて、暮らしの一部になっていることが大切。こうした状態を生み出していくための施策を各分野が融合することによって議論すべき。

## 【懇話会委員 意見】

### 1 議論の進め方等に関する意見

#### (1) ビジョンの立て方

- ・ 2060年までのロードマップをつくるつもりで考えればどうか。
- ・ 15年スパンで考えればよい、15年単位でシンボリックな目標を持つとわかりやすい。
- ・ あるべき姿を年次的に「見える化」し、将来の姿を分かりやすくすべき。

#### (2) 検討を進める際の留意事項

##### <重視すべき視点>

- ・ 富山県の魅力(強い面)と課題(弱い面)を整理したうえで検討を進めるべき。
- ・ 富山県の強みを活かす(持っている資源を活用する)という視点が重要。
- ・ 今は自分たちが欠点・弱点と考えているものが、将来的には強みとなっているようなこともある、そういったことも意識する必要がある。
- ・ 「富山県は他県と違う」ということを示していかないといけない、富山県のユニークさをどこまで出せるか。
- ・ 人口減少、地方衰退にどう対応するかが重要な問題、「地方創生」の視点も不可欠。
- ・ 付加価値の高い産業の構築(労働生産性の向上など)や県民所得を如何に高めるかが大きなポイント。
- ・ 県民が自信をもって富山に誇りを持てるには、経済と文化が両輪となって、好循環を生み出していくことが何より大切。
- ・ 教育、人づくりを中心に据えるべき。
- ・ 富山県としては、いつの時代でも教育の観点を忘れてはいけない。経済でも文化でも後継者を含めた人材の育成確保が必要だが、根本は教育。
- ・ 成功するには、経営者がしっかりすることが必要、カリスマ性を持ち、フットワークがあり、富山が大好きで時代の変化に強い経営者を育てていくことが重要。
- ・ ビジョンの柱の一つに「生活」という点を据えるべき。日本が抱える最大の課題は良好な子育て環境をどうつくるか。
- ・ かつて賑わいのあった街が今やスーパーもない地域となっている。車に頼らない社会づくりの視点が必要。
- ・ 県は、県全体の総合的な視点から市町村の枠を超えた取組みを進めることが必要。

##### <若者の意見の反映>

- ・ 策定にあたり一番大事なことは、40歳以下の若手の意見をどう反映させるか。
- ・ 20年30年先を担う学生の考えを聞いてみたい。
- ・ 青年部会の発足は、若い人たちの考え方も分かり重要。

##### <その他>

- ・ 国の資料等では、既に人口減少に伴う産業別の将来状況や2050年の国別GDPの予測等も示されており、こうした資料を参考に対応することが必要。
- ・ 調査統計は実態を反映したものでなければ、それをもとにした的確な対策をとれない。  
(例：生産年齢人口を15歳以上ではなく、20歳以上とし、64歳も引き上げる等)

## 2 目指すべき将来像について

- ・立山連峰、富山湾などの自然、美味しい食べ物、ものづくりを中心とした産業、伝統文化などの多くの魅力を持つ豊かな地域の中で、県民一人ひとりが富山に誇りを持って、いきいきと安心して暮らしている社会。
- ・人の豊かな心を育てるには、芸術をはじめとした文化の発展が欠かせない要素。人の豊かな心を育てることで、高齢者に対する配慮や優しい温かい家庭が築かれていき、富山全体が温かく愛される「ふるさと」富山県となる。
- ・一人ひとりの豊かな人生が支えられる社会。  
皆がヒト・モノ・カネのバランスの取れた生活を送れること、歯車がかみ合い全体が回る社会づくり。
- ・県民が明るい笑顔で暮らす富山の実現。人口減少問題を克服し持続的発展をはかる。
- ・心豊かな人が多い富山県。心豊かな人が増えると心豊かな社会となり、心豊かな社会は、平和な社会となる。
- ・地域社会との共生を子供から大人までもが大切にし、暮らしている県の実現を目指し、これを官民一体で推進していくことが大事。
- ・人口が減少しても、例えば富山県の場合、80万人になっても、今の県民所得を5割増しし、GDPを維持できれば現状以上という考え方もある、行政や民間が効率化し、大きく綺麗な家、東京から2時間の時間距離、世界で最も美しい湾や日本アルプス、付加価値の高いものづくりなどにより、県民1人当たりの所得（年収）も高いスイスのような地域づくりを目指すのもよいと考えられる。
- ・将来的に、技術者が集う富山県であることが必要。クリエイションを促進させるものは、研究設備のようなハードだけではなく、音楽や絵画といった文化的な環境も含まれ、優秀な技術者を集めるためには、技術者と文化のつながりを大切にしなければならない。
- ・恵まれた環境を活かし、「高度で高密度な工業化」を目指すべき。
- ・今後、富山県の製薬企業は、アセアン諸国を中心とした世界の市場に進出して稼ぐ力をつけていくこと、国際的な競争に打ち勝って利益を確保できる、付加価値の高い医薬品を製造することが求められ、このような能力を有する「世界に通用するスペシャリティファーマが集積する医薬品産業の拠点」を目指す。
- ・2015年～2030年は、富山県は人口減少時代に備えたインフラ整備と人口の社会増を目指すべき。人口減少の中でも県内の中心となる富山市、高岡市の社会増の基盤を作り上げていくべき（中心市街地に人を呼び込む等）、そうしなければ県全体が地盤沈下して、地域間競争に負けてしまう。
- ・県内の大学にもっと魅力的な学部を設けて、県外からもっと来てもらい、さらに県内に就職・定住してもらえるようにする必要がある。特に、女子学生の増加が必要。

### 3 論点（検討テーマ）

#### （1）経済・産業関係

##### ①ものづくり産業の新たな展開、労働生産性の向上

- ・富山県が生き残っていくためには「高度で高密度な工業化」を進める必要がある。幸い富山県は、水資源、電力資源、港湾などのインフラ、新幹線などによる人の移動手段、勤勉な県民性などに恵まれている。
- ・製造業をどうつないでいくか。子息が跡を継がないことから廃業する企業がある。完成品メーカーは、どこかでサプライチェーンが欠けると成り立たなくなり、欠けた企業の持つ技術力は一朝一夕で移転できるものではない。農地の中間管理・集積のように、技術力があるのに後継者がいない中小企業をいったん公的団体に管理・集約して、しかるべき経営者・企業に渡すといった仕組みができないか。
- ・地域にある土壌を活かしていくべき ①地域資源＋②新しい技術＋③従業員の持つ技能をうまく組み合わせることが重要、生産性も上がり、新しい産業の可能性も広がる。富山県の持つ水、土地、森林を生かしたものができないか。CLTの取組み。
- ・我慢強く、真面目、しつこく課題に取り組むという特徴が技術を生み出していたが、新幹線が開業し、外との交流が増えると、こういった特徴が維持されるのか、地域の人柄をどのように活かしていくのか考える必要がある。
- ・行政と民間が協力して、成長分野への参入、競争力の強化を図ることが必要
- ・高付加価値のある産業の育成と労働生産性の向上を目指すべき。
- ・労働生産性を上げるには、企業の統合をもっと進めるべき。10人程度の小規模な会社10社より、100人規模の会社1社の方が生産性は上がる。会社の規模拡大により、従業員の雇用環境改善、女性が働きやすい職場づくり、海外へのグローバル展開もできる。
- ・単なるイノベーションではなく、それぞれの顧客のニーズを具現化するための、製品研究・開発を行う（テクノロジー・オリエンテッド・バリュー・クリエーション）という考え方が重要

##### ②強みを活かした産業の振興

- ・ジェネリックだけでなく、「創薬」が重要、スイスのバーゼルでは研究員だけで数千人以上おり、医薬品の研究の一大拠点となっているが、富山県は医薬品関連の基盤は十分あり、官民を挙げれば同様の一大研究拠点を作り上げることが可能。
- ・「世界に通用するスペシャリティファーマが集積した拠点」を目指すには、器具をはじめ、容器・包装等の開発・製造を行う医薬品関連産業においても研究開発力・技術力の高度化が必要。
- ・薬草の県内の栽培量や品種を増やし、原料生産から販売までの一気通貫した流れを県内で確立させるしっかりした戦略をたてることが重要。大きな付加価値と雇用が生まれ、競争力も向上する。

- ・ 植物工場は気候に左右されず安定して野菜を生産でき、健康に有益な成分を付加増量した機能性野菜の栽培技術を確立することで、新たな付加価値による競争力向上が期待できる（工場での野菜生産は、ものづくり富山の風土にも合う）。
- ・ 富山県が力を入れているが、航空機産業は大事。人がグローバルに早く移動するために飛行機は必ず必要で、産業の裾野が広い。やるなら徹底してやるべき。
- ・ 農地を集約して多収量で高度な農産物を作るべき。そのうえで残余地は他目的に有効に利用すべき。
- ・ 観光資源発掘、観光振興。（立山観光の混雑対策、地域イベントの活用、ホテルや駐車場対策、目的地への案内板の改善、高齢者に対する配慮 など）
- ・ 情報発信の強化や近隣県との連携強化等による海外からの観光誘客を促進すべき。人口減少のもとでも生活サービスの充実と地域の活力を維持していくため、隣接県も含めた自治体間の新たな広域連携を促進すべき。
- ・ 重要な地域資源である富山湾の活用。県民の意識がまだまだ薄く、海沿いの自治体をもっと連携を図る必要がある。和倉温泉など能登ともタイアップすればよい。

### ③多様な人材の確保

- ・ 労働力の確保、特にものづくり立県を目指すうえで、工業系の学生が足りない。
- ・ 介護政策強化による介護離職防止対策など、高齢者労働力の確保。
- ・ 女性・高齢者の労働参加率の向上。男性と女性が共に分かち合い、子育てから介護まで仕事と両立できる環境を整備、女性の能力や感性を最大限に活かし、経済を活性化するウーマノミクスを推進すべき。
- ・ 大学進学時に県外に出ることが多いことは、県外から学ぶことも多く、否定しないが、卒業時に富山へのUターン者を増やすことが大事。Uターン者の受入れのためにも、富山の経済・企業の基盤をしっかりとしていくことが重要。

### ④広域連携、地域的特性を活かすインフラ整備

- ・ 富山県の経済圏を広げる取組みが必要ではないか。富山湾では能登、観光では金沢市、富山空港では飛騨との連携が重要。
- ・ ライバルは世界各国の都市や地域なので富山県という枠組みにとらわれ過ぎず、広域の観点、少なくとも北陸三県のネットワークの中で産業振興を進めていくべき。
- ・ 新幹線「つるぎ」で金沢—新高岡—富山間は20分で行き来できることから、富山・高岡・金沢をまとめてバーチャルな1つの都市として考えれば、文化面でも観光面でも厚みが出てくる。
- ・ 公共交通機関の利便性の向上、交通網の充実、道路整備の推進。
- ・ 新幹線開業後、関西圏の人からは「富山と距離ができた」と言われる。新幹線の早期開業・航空便など、ツール整備を進められないか。

- ・名古屋はリニアがきたら更に成長し、東海北陸自動車道で名古屋と富山も結ばれた大きな製造拠点ができる。東海北陸自動車道が4車線化すればもっと人や物の流れが多くなる。
- ・ハード・ソフト両面からの災害への備え（太平洋側のバックアップ）。

## ⑤人口の社会増の取組み強化

- ・2060年の富山県人口が80万人になることを改めて真剣に受け止めている。若い人、特に女性にどう都会から戻ってもらうか、どのような魅力を発信するか考えるべき。
- ・定住人口の増加に向け、住みたいと思わせる富山県の魅力のPR方策の検討（県外情報発信能力（影響力）の強化）、企業誘致の促進（進出企業への優遇制度、首都圏からの本社移転など）、魅力ある大学・学部、専門学校等の設置（理工系・女子学生）。
- ・新幹線開業により、自然豊かな富山に住み、時々東京を楽しむというライフスタイルが成り立つので、移住促進の際にPRするとともに県民にも知ってもらえばよい「富山の住居費・生活費＋東京への交通費」＜「東京の住居費・生活費」
- ・CCRCなど、県外からの定住増を推進するためには、働く場の確保が重要、県が要請して主要企業に移住者への一定の雇用枠を確保するような仕組みや、県外へ進学している大学生に対する2・3年生のうちから県内の企業・技術を紹介する取組み、UIJターンの意思がある者へは就職試験の際にインセンティブを設けてはどうか。
- ・住みよい環境づくり（自然の豊かさ・風光明媚な観光地の整備、障害者や高齢者等の社会共存ができる環境づくり、充実した教育環境の整備）
- ・安心して子供を産み育てることのできる社会の実現。（三世同居の推進、男女共同参画社会へ向けての意識向上など）

## （2）文化関係

### ①次代を担う子どもたちの芸術文化環境

- ・芸術文化は小さい頃からの積み重ねが重要なので小さい頃から本物の芸術に触れる機会が必要。子供の頃から、世界的な文化に触れることが大事、世界に目を向けるきっかけとなり、将来、国際的な仕事につきたいと考える子どももいる。
- ・小さいときから優れた芸術文化に触れる機会を増やす。優れた芸術文化に触れると感動し、年間いくつもの優れたものに触れることで心の豊かさが維持できる。
- ・小さいときから研鑽を積んで優れた芸術を作り出すなど、体験することによって、心が豊かになる。ものを作ることで感動し、そしてより良いものを作り出す。
- ・物語を構築したりする力を養成できないか。心の豊かさと表現力はリンクする。
- ・芸術文化は、子どものころからの積み重ねが重要なので、学校生活との両立ができればよい。また、富山大学で舞踊や音楽も学ぶことができればよい。
- ・芸術文化による国際化について、子供のうちに世界との交流を体験させることにより、グローバルな考えを持つようになる。

## ②伝統文化の継承

- ・ 伝統文化の再認識について、日本人の心のよりどころは伝統文化であり、我々が一番わかる。日本人の共通の教養として、グローバル化が進んでも教え、伝えていくべき。また、英語の勉強も伝統文化をどう表すかなどを教えるべき。
- ・ 心の豊かさを育むには、おわら、むぎや、こきりこなど、地域における伝統文化の継承が欠かせない

## ③芸術文化の振興

- ・ 富山ならではの文化を育て、「富山といえば〇〇、富山に行けば〇〇を見ることができるといふものを発信すれば、全国から人を呼べる。富山では、美術、音楽、舞踊などの異なった分野とのコラボレーションや流派を越えた華道展等が行われ、他県では例が無い独自のものと評価されている。
- ・ 芸術文化のレベル向上を図るには、指導者のレベルアップも必要。また、県内には、文化ホールが充実しており、発表の場所はたくさんあるが、創造・訓練の場が少ない。創造・訓練の拠点となる場所が増えれば、更にレベル向上を図ることができる。
- ・ 県内には多様な文化があるが、若者が楽しめるものが少なく、全てを県内で何とかしようというのではなく、富山・高岡・金沢をまとめて考えるべき。
- ・ 大伴家持をもっと打ち出すべき。高志の国文学館の中西館長を中心に研究センターを創設することや、県内各所に石碑を設置する など。
- ・ 利賀が世界NO1の演劇のトレーニングができる場となるためには、芸術だけでなく、宿泊施設、交通手段、食の提供のレベルアップが必要。

## (3) 人づくり

### ①人づくり、教育の方向性

- ・ 学力向上偏重ではなく、自分の適性を見抜く教育、余裕のある教育が大事。
- ・ 家庭生活や仕事の持続、地域で生活していくには、人間関係維持力が必要、これを育むことが大切。
- ・ 学びたいときにいつでも学べる、また学び直せる仕組みが必要。
- ・ 県民一人ひとりが富山の良さを発信できるよう、しっかりとコミュニケーションを取れるようになることが重要。それには教育が大切。
- ・ 底辺をそろえる（引き上げる）と同時に抜き出した才能や可能性を見出してより伸ばすような柔軟な教育。ある分野のプロとなるようなスペシャリティ人材をしっかりと育てていく必要がある。

### ②道徳、公民教育

- ・ 市民・県民の姿勢はどうあるべきか。税金の総額が限られる中で、公共施設・各種補助金・行政サービスについて、市民、県民として何でも求めるのではなく、我慢すべきところは我慢するという考えを持つべき。そういう道徳教育が必要。



- ・教育では、小さい頃から義務・責任・権限は一体のものであるという“三面等価”を教え、自分の存在意義を見つけていくような教育をすべき
- ・教育で重点をおくべきは、道徳、親から子に良いものを伝えること。高齢者に対する思いやりなど、道徳を学ぶことで心の豊かさが育まれ、家族の絆が強まり、こうしたことが富山の発展の基盤となる。
- ・社会の一員として責任ある行動を取る人間を育成する公民教育の推進

### ③産業に関係した人材育成

- ・教育と産業のつながりを重視し、社会に出た後も必要な技術や知識を学べる環境づくりが必要。会計、英会話など社会人が学べる学校はあるが、工学や分析装置の操作など理系の専門技術などを取得できるような教育プログラムを作れないか。
- ・これからの日本に必要なのは、ものづくりを支える技量・技能を持った人材、工業高校や高専にもっと力を入れるべき。
- ・地域のものづくりを支える技能を持つ人材等を大切にすべき。
- ・人工知能の技術が進み、いずれ数字は機械に置き換わるが、その際に必要なのは機械にはできない「人間力」、今の文系・理系の区分に関わらない両者を統合した教育が求められる。
- ・カリスマ性を持ち、ユニークで、フットワークがあり、富山が大好きで、時代の変化に強い経営者を育てていくことが必要。時代が激しく変化する中、同じものを作ってもダメ、次に転換できない。
- ・医薬品産業の高度な器具等の開発を行う研究者・技術者や器具等に関する知財を管理する人材の育成が必要。

## (4) グローバル化

### ①グローバル化の進展

- ・一番のグローバル化とは外国人が日常の場におり、外国人だと意識しない状態。富山県内はあらゆる場面で外国語表記が少ない、日常的に英語を目にする環境が重要。
- ・グローバル化は、語学ができることと考えられがちだがそうではない。自分のことや自分の住む地域を語れるということが、コミュニケーションの基本。

### ②外国人の受け入れ

- ・海外、特に ASEAN からの留学生の受け入れを促進すべき。インターンシップは企業としても優秀な人材を確保できメリットは大きい。留学生は横の強がりがあるので、富山の大学をもっと知ってもらおうアピールを行うことが必要。
- ・技術の底上げやグローバル化の観点からも、海外の大学に日本の工業高校や高専の学生を送り、向こうからも優秀な技術者を受け入れるということを10年、20年単位の計画として考えてはどうか。

- ・人口減対策の一つの方法として、闇雲にではない形での移民の受け入れがある。日本人は勤勉だが発想の転換が苦手なので、異なる考え方を受け入れ、刺激を得るべき。今のままでは外国人は来ないので富山県が先鞭をつけてグローバル化に取り組んではどうか。また、外国人が富山県の企業に就職・移住し、生活者として消費するというサイクルを生み出すことで、人口減による労働力と消費減少の問題を軽減すべき。
- ・人口減少は避けられない深刻な問題、富山県が外国人の雇用を率先して推進してはどうか。世界では既に外国人の雇用が普通になっており、日本も時代の流れに乗っていくべき。世界中に伸びる人材がおり、英語によるグローバル対応は当たり前。

#### (5) その他

- ・ICTの活用について、ものづくり分野は技術を盗まれるリスクがあるので、医療面での活用を目指してはどうか。病院のビックデータを相互利用すれば医療費の削減にもつながる。高齢者の一人暮らし世帯での活用も考えられる。
- ・再度、県事業の徹底したムダの排除を行うべき。
- ・財政状況の厳しいなか、重点分野への集中投資との考え方が必要。

※速報のため、事後修正の可能性があります。